

「農業技術革新・連携フォーラム 2020」 開催報告

<概要>

農研機構、日本経済団体連合会、先端農業連携機構、日本農業法人協会は、令和2年12月14日～28日に、オンライン専用サイト上で「農業技術革新・連携フォーラム 2020」を開催し、参加者235名が閲覧した。本フォーラムは2017年から毎年開催され、今回で4回目となるが、オンライン開催は初めての取組となった。

展示内容は、主催団体からの挨拶に続き、基調講演には、東京農工大学の千葉一裕学長から「食の未来」に対する責任とこれからの活動方針」、(有)穂海農耕の丸田洋代表取締役から「穂海の取り組みと未来の農業技術への期待と展望」をテーマに講演映像が展示された。オンライン展示では、農研機構や経団連会員等民間企業から42の技術・サービス等に関する紹介が行われた。

<開催ページトップ>



ホーム > 農業技術革新・連携フォーラム オンライン展示



農業技術革新・連携フォーラム オンライン展示

我が国における人口減少に伴う労働力不足は深刻な課題となっており、これからの日本農業の安定的かつ持続的発展には生産性の向上及び流通改革等が必須である。

このような状況を踏まえ、農業・食品分野における最先端の研究成果を持つ農研機構、時代の潮流に先んじて経営発展を目指す農業法人、日本経済の自律的な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする日本経済団体連合会及び農業界と経済界との橋渡しに取り組む先端農業連携機構（一般社団法人日本食農連携機構・株式会社クニエ）とが、相互に理解を深め連携することにより、農業生産の現場における更なる技術革新の実現を通じて、日本農業の安定的かつ持続的発展及び国民生活の向上に貢献するため、本フォーラムを開催する。

▶ 各出展者の連絡先一覧はこちらよりダウンロードください

主催者挨拶



主催者挨拶
農研機構 理事長
久間 和生



主催者挨拶
日本経済団体連合会
副会長／農業活性化委員長
佐藤 康博



主催者挨拶
日本農業法人協会 会長
山田 敏之

<開催ページ抜粋>

基調講演

「食の未来」に対する責任とこれからの活動方針
東京農工大学 学長 千葉 一裕 様

穂海の取り組みと未来の農業技術への期待と展望
(有)穂海農耕 代表取締役 丸田 洋 様

オンライン展示

「産地」と農研機構連携データベース
本展では、データ駆動型農業の実現に向けて農研機構が推進している農業情報研究基盤についてご紹介いたします。
農研機構の農業情報研究基盤は、国内外の研究データを集約・カタログ化した農研機構統合データベースと、国内産地分野では特になる大規模スーパーコンピュータ・環境から構築されます。
これにより研究データを分析・活用し、AI/MLを用いてAI駆動型データベースとした最新の農業データリソースの提供が期待されます。

WAGRI(農業データ連携基盤)の活用に向けて農研機構
農業データ連携基盤(WAGRI)は、データ駆動型農業の普及に不可欠なデータ連携・共有・提供機能を実現するクラウドプラットフォームとして構築され、2019年度から農研機構により運用が開始されました。
WAGRIは、気象や農機、地回帰データや、農研機構が収集した作物生育データプログラムなどを連携して、新たなサービスを提供することが可能です。
また、自らが保有するデータや、プログラムを有償提供することも可能です。
本展では、WAGRIの活用事例や機能、ビジネス展開などについてご紹介いたします。

収穫予測技術で農産物(トマト)の生産性向上農研機構
農研機構では環境情報や気象情報から農産物の収穫を予測する技術を開発し、実証可能なWAGRI連携予測AIを開発しました。
この技術を応用すれば、農産物の収穫による生産性向上や、収穫予測情報に基づいた生産管理の効率化などが期待でき、生産性向上の効果が期待されます。
収穫予測技術がAI化されたことにより、収穫予測が容易となり、クラウドサービス化により、農産物の生産性向上に貢献することが期待されます。

農業用画像ディープラーニング、穂海農耕株式会社
株式会社ウダテックテクノロジーズ
上記の製品について
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。

すずみスト、農工ネットシステム、穂海農耕株式会社
株式会社すずみスト
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。

1-2日で収穫予測、9日以内収穫、農研機構
株式会社 小島農研
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。

新設事業を支援する企業、農研機構
株式会社 山形大学
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。

ロボット&AI活用によるDigital Farmingへの挑戦、山形大学農学部 年度農研機構
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。

イオン水生産品、イオン水生産品
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。
農研機構との連携により、農産物の収穫予測が可能となり、生産性向上が期待されます。

<開催概要>

1. 目的

我が国における人口減少に伴う労働力不足は深刻な課題となっており、これからの日本農業の安定的かつ持続的発展には生産性の向上及び流通改革等が必須である。このような状況を踏まえ、農業・食品分野における最先端の研究成果を持つ農研機構、時代の潮流に先んじて経営発展を目指す農業法人、日本経済の自律的な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする日本経済団体連合会及び農業界と経済界との橋渡しに取り組む先端農業連携機構（一般社団法人日本食農連携機構・株式会社クニエ）とが、相互に理解を深め連携することにより、農業生産の現場における更なる技術革新の実現を通じて、日本農業の安定的かつ持続的発展及び国民生活の向上に貢献するため、本フォーラムを開催する。

2. 主催・協力

主催：農研機構、日本経済団体連合会、先端農業連携機構、日本農業法人協会
協力：日本政策金融公庫

3. 対象範囲

農業生産者・関係組織、民間事業者、研究機関等

4. 会期・会場

会 期：令和2年12月14日（月）12:00 ～28日（月）17:00
会 場：先端機構 HP 内特設サイト <https://sentannogogyo.jp/>

5. プログラム

(1) 主催者挨拶

出演 久間和生（農研機構 理事長）
佐藤康博（日本経済団体連合会 副会長／農業活性化委員長）
山田敏之（日本農業法人協会 会長）

(2) 基調講演 「食の未来」に対する責任とこれからの活動方針

東京農工大学 学長 千葉 一裕 様
穂海の取り組みと未来の農業技術への期待と展望
(有)穂海農耕 代表取締役 丸田 洋 様

(3) 展示会 スマート農業、生産・基礎技術、資材機材、経営管理等 42 件

6. 参加費 無料

以上

農業技術革新・連携フォーラム2020 出展内容一覧

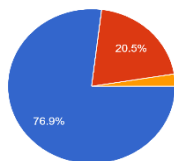
番号	出展者名	テーマ	担当者アドレス
1	農研機構	データベースとAIで眠っていた膨大な研究データを活かす～農業情報研究基盤を構築～	www@naro.affrc.go.jp
2	農研機構	スマート農業を実現する農業データ連携基盤WAGRI～日本の農業をデータ駆動型農業へ変える～	www@naro.affrc.go.jp
3	農研機構	スマート施設園芸を加速！～生育・収量予測ツール～	www@naro.affrc.go.jp
4	農研機構	多機能尾部センサとAIで牛の状態や疾病の検知に成功～尾装着型のセンサが畜産業のICT化を推進～	www@naro.affrc.go.jp
5	農研機構	誰でも病害虫を簡単に識別できるアプリケーションを開発～現場で使える、役に立つ、AIツール～	www@naro.affrc.go.jp
6	農研機構	食べやすく美味しく新しい果樹～日本発の果物に世界が注目～	www@naro.affrc.go.jp
7	農研機構	日本文化を象徴する抹茶の新しい挑戦～世界戦略品種「せいめい」～	www@naro.affrc.go.jp
8	農研機構	においや黄変が発生しないダイコン品種を開発～フレッシュ感がいつまでも持続～	www@naro.affrc.go.jp
9	農研機構	ブランド米からオーダーメイドのお米へ～使い方に合わせておいしいお米を創る新時代～	www@naro.affrc.go.jp
10	農研機構	健康に良い大麦がさらにパワーアップ～美味しいもち性大麦品種の利用が拡大中～	www@naro.affrc.go.jp
11	農研機構	モデルプラが医学研究の明日を拓く！～遺伝子改変技術で研究用モデルプラを開発～	www@naro.affrc.go.jp
12	農研機構	ヒトの胃での消化の仕組みをシミュレーション～健康の維持・増進に役立つ食品の開発に貢献～	www@naro.affrc.go.jp
13	農研機構	食品や農産物の中をMRI（磁気共鳴画像法）で見る～水と油の出すMRI信号で可視化～	www@naro.affrc.go.jp
14	農研機構	カイコが薬も素材も作る！驚異の生物工場～遺伝子組換えカイコが導く蚕業革命～	www@naro.affrc.go.jp
15	農研機構	6時間で自動的にBOD測定！～スマート養豚排水処理を実現～	www@naro.affrc.go.jp
16	農研機構	農業を使わない天敵を使った害虫防除をシンプルに！～誰でも簡単に始められる天敵サポート資材～	www@naro.affrc.go.jp
17	農研機構	養豚汚水浄化処理からの温室効果ガス排出を80%削減！～炭素繊維リアクターで浄化を更にエコに～	www@naro.affrc.go.jp
18	農研機構	水のある場所で、環境モニタリングセンサーを駆動！～微生物燃料電池システム～	www@naro.affrc.go.jp
19	農研機構	施設園芸用新型ヒートポンプを開発～ローコストで安定した加温が可能～	www@naro.affrc.go.jp
20	農研機構	日本の貴重な水資源「ため池」を活かし守り災害を防ぐ～ため池防災支援システム～	www@naro.affrc.go.jp
21	農研機構	いろんな農機がつながる！！～ISOBUS国際認証を取得～	www@naro.affrc.go.jp
22	株式会社ウッドプラスチックテクノロジー	農業用敷板ディバン、籾殻処理炉	yagihashi@wpt.co.jp
23	株式会社環境デザインラボ	循環扇後付け方式、空間冷却/加湿システム 「すずミスト」	info@ecology-lab.co.jp
24	株式会社 小名細胞アッセイ技術研究所	1-2日で急速追熟、5日以内迅速・同時休眠打破の食可能液（九州大学発ベンチャー）	info@oatari-inc.com
25	I D E C 株式会社	新規事業をお考えの企業の皆様へ、農業参入をトータルでサポートいたします	Kenichi.shinozaki@idec.com
26	山形大学農学部 生産機械研究室	ロボット & AI活用によるDigital Farmingへの挑戦	mkata43@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp
27	ハイパーアグリ株式会社	イオン水生成装置を用いた水稲「無農薬栽培」のご紹介	info@hyper-agri.com
28	上越ICT事業協同組合	データ×自動化×シミュレーションで後継者を育成する営農システムと遠隔自動給水装置	inomata@itsoft.jp
29	三陽機器株式会社	リモコン式自走草刈機 AJK600	s-tani@sanyokiki.co.jp
30	高知県	IoTで"もっと楽しく、もっと楽に、もっと儲ける"農業を実現	takuya_hosokawa@ken4.pref.kochi.lg.jp
31	日本ユニシス株式会社	IoTセンサー・AI・スマートグラスを組み合わせた点検サービス"まると点検"	yoshiya.takano@unisys.co.jp
32	パナソニック株式会社 アプライアンス社	土と栽培の見える化で循環型農業をサポート「栽培ナビ/栽培ナビドクター」	saibai-navi@ml.jp.panasonic.com
33	次世代農業者(スマートファーマー)育成コンソーシアム	スマート農業実証プロジェクト次世代農業者(スマートファーマー)育成の取組みについて	smartfarmer_pj@smartagri.co.jp
34	合同会社アグロインフォ	温室栽培支援システム Thinking Farm	sone@agroinfo.co.jp
35	カシオ計算機株式会社	中小企業向け販売管理システムを利用した業務効率化のご紹介	kuribayashi-cj@casio.co.jp
36	株式会社ITAGE	生育状況がスマホで見える、「生育ナビ」	kenji.yokoi@itage.co.jp
37	株式会社日本トリム	次世代型高軒高ハウスでの電解水を用いたパブリカ栽培	masahiro.amano@nihon-trim.co.jp
38	国際航業株式会社	空から診る精密農業 営農支援サービス 天晴れ	agriculture@kk-grp.jp
39	株式会社NTTデータCCS	水稲AI画像解析ソリューション	khioki@nttdata-ccs.co.jp
40	日本農薬株式会社	レイミーのAI病害虫雑草診断アプリのご紹介	noda-munetaka@nichino.co.jp
41	有人宇宙システム株式会社	衛星データを用いた営農支援 Digital Farming	imaki.kazuya@jamss.co.jp
42	アイ・イート株式会社/国立大学法人 宇都宮大学	日本産イチゴを、高品質を維持して世界展開を可能とする技術	mkashiwa@ieat-fresh.com

農業技術革新・連携フォーラム2020 事後アンケート(2/5～2/17)回答結果

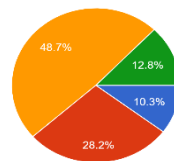
2021/2/17

I 回答者について(必須、39回答/235参加登録数、回答率16.6%)

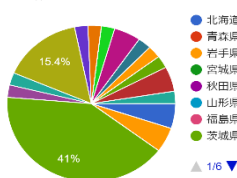
1. 性別
39 件の回答



2. 年代
39 件の回答

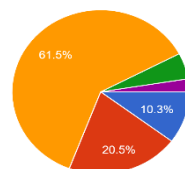


3. 地域
39 件の回答



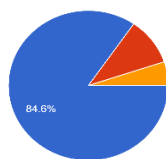
北海道	2	大阪府	1
岩手県	2	新潟県	1
茨城県	16	広島県	1
埼玉県	1	高知県	1
東京都	6	福岡県	3
千葉県	1	熊本県	1
神奈川県	1		
静岡県	1		
愛知県	2		

4. 業界区分
39 件の回答

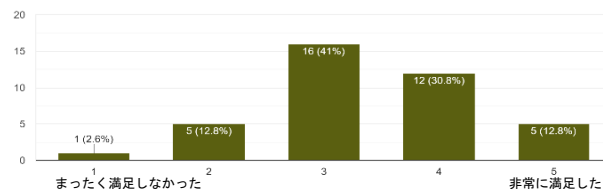


II 全般的なことについて(必須)

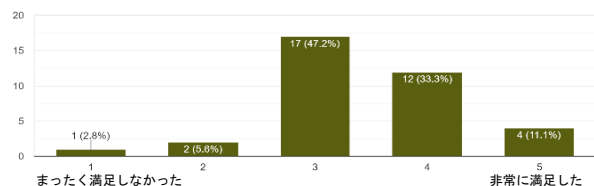
1. 本フォーラムは何回目の参加ですか
39 件の回答



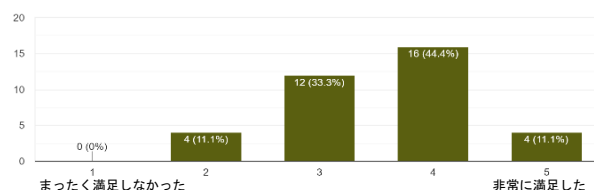
2. 今回のオンライン開催について総合的な満足度をお知らせください。
39 件の回答



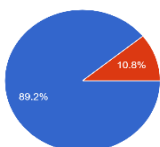
4. 開催内容の構成
36 件の回答



5. 開催期間の設定
36 件の回答



6. また次年度のイベントに参加したいですか。
37 件の回答



3. 「2. 総合的な満足度」回答の主な理由

<非常に満足した>

5 回答5件

大変勉強になりました。講演内容が充実。教育番組を見ているような感覚で楽しく農業に関する新たな技術や取り組みについて学ぶことができた。スマート農業の最新の技術などを、自分の時間で知ることができたため。

4 回答12件

会場展示だと歩いているだけでいろんなものが目に入るが、オンラインだと元々興味があるもの以外へ目が向きにくい。全体を俯瞰できる工夫がほしい。ネットワーク開催なので参加しやすかった。新技術を学ぶことができた。

3 回答9件

内容については物足りなさを感じるが、技術展示が動画で見られる点は利便性が高いと感じた。プレゼンの情報は見やすかったが、連携・交流の場としての機能は十分とは言えなかった。今後の現場における具体的な支援や進展方向に時期について理解しにくかった。相手の表情がよく見えない。

2 回答5件

対面の質疑応答がないため、手ごたえがない。オンラインのため全体像、全体にかかる時間が分かりにくかった。業務の時間を割くほどには、心が惹かれなかった。選ばれたオンラインがあまり良くなかったと思う。課題の掘り下げが不十分。

<まったく満足しなかった>

1 回答1件

見たいところへ、うまくつながらなかった